

# 会報

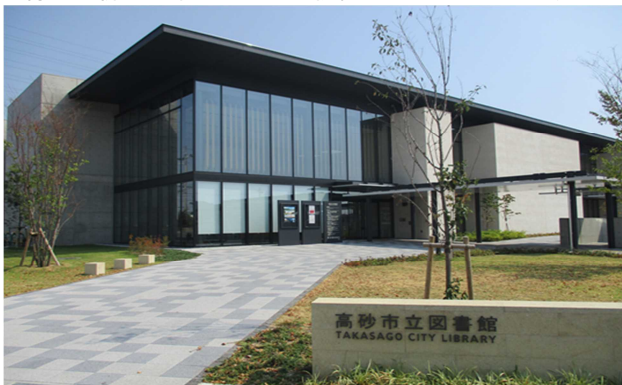
No. 109

平成28(2016).10.1

## 「新しくなった高砂市立図書館」

高砂市立図書館長 大塩正一

高砂市立図書館は昭和33年2月に旧高砂町役場で開設され、昭和53年8月に曾根町にあった東播磨高校の跡に移転しました。以来40年近い年月を経て建物の老朽化が著しく、手狭なことから新館移転となりました。高砂市は移転を期に指定管理者制度を導入することとし、平成27年4月から指定管理者が図書館運営を担うことになりました。曾根町にあった図書館は多くの市民に親しまれておりましたが、平成27年9月30日に新館移転準備のため惜しまれながら閉館し、平成28年2月に待望の新図書館が米田町に移転オープンしました。



高砂市立図書館外観

新館のエンタランスには高砂市特産の「竜山石」レリーフと松右衛門帆のタペストリーがあしらわれ、来館者を暖かく迎えます。建物は鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積が約2,830㎡と旧館に比べるとおよそ5倍の広さになり、蔵書数は約15万冊で、20万冊まで収容可能となっています。新聞は6紙から10紙に、雑誌は28タイトルから約140タイトルに増えました。開館時間は9時30分～20時になり、旧図書館に比べて2時間長くなりました。休館日についても旧図書館は毎週月曜日と20日の館内整理日の月5日でしたが、新館では毎月第1月曜日(館内整理日)1日となり、ご利用の皆様への便宜をはかっています。新しい図書館ではフロアを問わず読書スペースを設け多種多様な椅子で読書を楽しめるように配置しています。

新しいサービスとして「セルフ貸出コーナー」、「オンラインデータベース」、「電子書籍閲覧貸出サービス」、デジタルアーカイブ「デジタル郷土たかさご」、「ハイレゾ音源」が流れる空間、「読書手帳」と資料の情報をシールプリントするサービス、館内「Wi-Fi」などが利用可能となっています。

蔵書にICタグを付けることにより、セルフ貸出による貸出しのスピードアップ化やセキュリティゲートの設置が可能になり、資料管理の強化を図ることができました。オンラインデータベースは新聞記事や児童用の百科事典の項目検索、

裁判の判例検索が行えます。ナクソス・ミュージック・ライブラリーを導入し、クラシック、ジャズや民族音楽を自宅のパソコンで聞くことのできるサービスも提供しています。

デジタルアーカイブ「デジタル郷土たかさご」では高砂市の地図の昔と今を比べることで地域の変遷がわかります。昔と今の地図を重ねて見ることもできるので街の移り変わりがより一層はっきりとわかるようになっています。

また、昔の「広報たかさご」(市政だより)を画面上で見ることができます。元の資料は経年劣化が避けられませんが、デジタル化することにより、昔の情報をそのまま残すとともにより多くの方に見ていただくことができるようになりました。

「読書手帳」は大人用と子ども用の2種類をご希望の方に無料で配布しています。読書記録を記入でき、読書の履歴がわかります。カウンターで資料を借りる時に申し出ただけであればタイトルや著者名などを印字したシールをプリントアウトして提供しています。



高砂市立図書館1階フロア

サービスポイントとして8館ある公民館にOPACを設置し、検索や予約ができるようになっているほか、予約本の受渡しや返却本の受取りをしています。そのため毎日1便、図書館と公民館の結ぶ巡回車を運行しています。

以上のような新しいサービスや運営の改善をはかることにより、旧図書館に比べ利用者は格段に増え、市民の憩いの場として生まれ変わりました。

これからも「文化を育み学びを支える図書館」を基本理念として「地域を支える情報拠点」、「市民に役立つ図書館」、「ふるさと高砂の伝統・文化の継承・発信」、「子どもの読書支援」、「他の公共図書館等との連携」を基本方針にスタッフ一丸となって運営に尽力し、より質の高いサービスを提供するとともに市民の求める情報をより的確、迅速に提供できるように今後も努めてまいります。

## 図書館で働いて思うこと

三田市立図書館ウッディタウン分館 おだ 小田 ゆたか

昭和が終わる最後の夏、三田市立図書館の開館準備室で、私は初めての司書という仕事に悪戦苦闘していました。その後、藍分室の準備室でも同じ業務に携わることになります。実を申しますと私は、ほとんど新館しか経験したことがない司書なのです。一から書架や人の動きを考え、やり方を決めるところからというわけです。本館の時は右も左も分からなかったのが、分室の時はおぼろげながら理解できたような気がしたものです。

何も無い空っぽの書架の前に立った時、一瞬パーと頭の中に広がる景色があります。それはきっと自分自身の司書としての理想の投影なのかもしれません。しかしそれだけでは、図書館を形作る原動力にはなりません。そこには忘れてはならない、利用者さんという主役がいます。利用者さんと司書、この両者の意志と努力で育っていくのが、図書館というものだと思います。

## 「？」を「！」に 皆さまと共に

丹波市立青垣図書館 あだち 足立 ようこ 容子

皆さま、18年間のご支援ご協力が難うございます。本の大好きな皆さまと共に笑顔で話し語りふれあい、出会いや別れも重ねつつ働ける毎日に「感謝」し、「幸福」に感じています。思い起こせば、合併を機に、電算化、移転、開館とめまぐるしく過ぎた日々、汗を流し、本の波にのまれそうにもなりながら、未明混沌としたものに順序と秩序を与えて整理保管することと、少しずつできるだけ身近な生活に役立つ本を幅広く各分野に渡って置くことに努めました。図書館は、合併の優等生といわれ、大変便利になっています。市内6館は協力して運営し、私共職員は、知恵を出し合って「？」を「！」につなげ、皆さまのお役に立てるよう「明日の暮らしが明るく豊かになるように」励んでいます。どの分館も特色を持ち、情熱や自信を持って活躍しています。ホームページやブログもご覧になれます。「一步前へ！生きて動くのは」これからです。

今後ともよろしくご指導ください。

# 来フラリ～

## 私なりの一冊を

たつの市立龍野図書館 みわ 三葉 のぶこ 展子

「この前薦めてもらった本、良かったわ。他にも何かない？」この一言は、司書として一番嬉しく、やりがいの感じられるものですが、それと同時に利用者の要望に応えられた、と安心できる言葉でもあります。

私が図書館で働き始めた頃はまだ図書館システムが導入される前で、蔵書は目録カードで検索していました。何も分からない私は「お願いだから私に話しかけないで」と祈りながらカウンター業務をしていました。先輩の職員は利用者の名前はもちろん、その人の読書傾向までも把握していて、何を聞かれてもこれぞという本を手渡している姿に、私もいつかあんな風になりたい、と漠然とした夢を抱いていました。

当時思い描いていた司書には程遠いですが「この本面白かったよ」「今度この作品が映画化されるらしいですよ」など、様々な情報交換を利用者とするこも増え、また図書館の蔵書も随分把握出来るようになりました。今はキーワードを入力すれば蔵書検索が出来ますが、検索結果からだけでなく私なりの一冊が届けられるよう、これからもより多くの本と利用者に出会っていかれたらと思います。

## 「日々」

佐用町立図書館 ばば 馬場 あゆみ 歩

図書館には開館3ヵ月前から働きはじめ、気が付けば15年が経っていました。それまで身近に図書館がなく何もわからないままの図書館勤務で、開館準備のため新しい本が入った箱が山積みされているのに驚きながら受け入れ作業に追われたことを思い出しました。

小さな町に初めてできた図書館は、ほとんどの方にとって初めて利用する施設で、リクエストができること、調べもの手伝いをしてもらえること、読み聞かせやおはなし会があることなど、少しずつ図書館のことを知っていただいたように思います。来館時の挨拶と、迷われている方やお母さんの本選びを待っている子に声をかけることを心がけて、次第に利用者の方からこんな本ない？取り寄せてほしいんやけど、この本よんでと言っていただけになりました。

あらためて、職場の方や利用者の方に助けられ様々なことを教えていただいていることに感謝しながら、これからも日々の業務を丁寧に、利用者の方との会話を大切に、図書館を気軽に使っていたけよう努めていきたいと思っています。

## 変わること、変わらないこと

神戸市立中央図書館

はぎにわ えみ  
萩庭 恵美

図書館に勤めて今年で23年になります。「十年一昔」と言いますが、勤め始めた当時と今では、図書館も私自身の生活も大きく変わりました。約5年間の育児休業、7年間の高専図書館勤務を経て昨年度中央図書館に戻ってきた際は、あまりの変化に戸惑うことも多かったです。以前あった非電算図書館も全て電算化され、世の中の流れと並行して図書館も情報化が進み、それに伴い様々な業務も多様化していました。体制面でも開館時間延長や指定管理者制度導入等大きな変化がありました。

しかし、変わらないものもたくさんあります。私が一番それを感じるのは子供達の姿です。今の子供は生まれた時からインターネットやゲームなどの楽しいツールがたくさんあります。よって、昔と比べると読書時間は短くなったかもしれませんが、本が好きな子は今もたくさんいます。図書館には、閲覧や貸出以外でも小学生の見学や中学生のトライやるウィーク、大学生の実習等で多くの学生が来館します。彼らを引率したときやカウンターで学生に接したときなど、会話を聞いたり行動を見てみると、ユニークで楽しい場面に出会うことがあります。そんなとき、子供の無邪気さに心が和みます。

## 私と図書館

上郡町立図書館

たけだ しげみ  
武田 成美

兵庫県の西の端にある『上郡町民図書室』も平成27年にやっと『町立図書館』になりました。

私が勤め始めた時には「今に図書館になるから！」と言われ続けて25年、何度となく図書館の移転・設計図も考えましたが、なかなか上手くいかず同じ場所での名前の変更のみとなりました。

それでも、二人の職員とともに、またボランティアの方々の協力のもと、おはなし会や講演会等永年続いている行事が多くあることに感謝いたします。

また、東備西播・播磨圏域・播磨科学公園都市圏域の各定住自立圏事業により講演会の継続・図書相互利用の拡充など町民サービスに多いに役立っています。

今後は、システム化が実現するといいなあ！と期待しています。

県立・近隣市町図書館のご協力を頂きながら、上郡らしい誰でも気軽に入れる憩いの場としての図書館を目指していきたいと思っています。



上郡町キャラクター  
円心君とエイトちゃん

## 児童室とともに日々勉強

加古川ウェルネスパーク図書館

かしのぎ たまよ  
柏木 珠代

出産・育児の為に図書館を退職し、もう図書館の仕事に戻れないと諦めていた私に思いがけず復職の機会を頂き、先日永年勤続表彰を頂く事が出来ました。とはいえ、復職してからはもう一度司書として初心に戻り学校図書館勤務をはじめ、勉強や経験をし直した7年間でした。

15年という年月の大半は児童室を担当させて頂き、多くの子ども達と本を通じて触れ合うことができました。また、その中で出会ったストーリーテリングの世界は私にとって大きな財産となりました。諸先輩方からたくさんのお話を学ばせて頂き、未熟な私ですが多くの子ども達にその楽しさを伝えていきたい、ずっと語っていきたくと思っています。15年目にしてさまざまな経験を通じて司書として、図書館員としてやっと少しだけ成長することができたかな？と思うことができるようになりました。ですが、まだまだ力不足・勉強不足なことばかりで日々勉強の毎日です。大好きな児童室と子ども達に本との出会いその楽しさを感じてもらえるような児童室にしていけるように丁寧な仕事をしていきたいと思っています。

## 全国図書館大会助成事業報告

テーマ：図書館員のためのアサーショントレーニング

開催日：平成28(2016)年6月28日(火)

会場：小野市立図書館

講師：高野一枝氏

皆さんはカウンターで、利用者に真意を伝えきれず誤解を受け、苦い思いをしたことはありませんか？職場で上司や同僚に理解されず苦しんでいませんか？部下や後輩に仕事の改善を望みたいのに伝わらないことはありませんか？そんな時に「アサーション」というコミュニケーション方法を試してみる価値はあると思います。「それは知っているけれど、そう簡単には出来ない」と思われた方にこそ今回の研修は最適なものでした。



なぜなら、今回の研修目的の1つは、図書館員として「自分の気持ちを把握し自分の人生に責任を持つことを再確認」することだからです。そんなことぐらい出来て当たり前だろうと思われた方、あなたは、初対面の人に「あなたの短所は〇〇です。」と言えますか？逆に他人から言われた場合は、どうしますか？短所＝「弱点」、「ダメな自分」、「傷つけられた」、「悪口」と捉えてしまい、嫌なことを言う相手を攻撃する、落ち込んで相手の言いなりになる、何も言えない等のパターンに陥りませんか。そうなるのは、あなたのこれまでの「〇〇すべき、せねばならない」など否定的な経験と懐疑的な思い込みがそうさせていると考えてみませんか。



ではなぜそれが、図書館員にとってマイナスなのかと言うと利用者が多種多様だからです。自分の非合理的な思い込みがあると提供できるサービスが限られてしまうからです。グループワークではそれぞれが抱えている問題を出し合いながら解決していくための3ステップとセリフ作りに役立つDESC法を学びました。思考手順やステップをあらかじめ準備しておくだけでサービスの広がりや深まり、館内会議の進捗度が随分違くと体感できたのではないのでしょうか。

最後に「どうせ〇〇だから」と思う感情は誰のものでもなく自分のもの。だから、自分でコントロールできる。さらに「皆さんは図書館以外の世界にも目を向け、利用者の視点に立つことを諦めないこと」と講師からのメッセージで締めくくられました。

(小野市立図書館 和田真由)

## 他館紹介

### 川西市立中央図書館訪問記

8月12日、川西市立中央図書館を訪ねました。児童コーナーでは、大きくてわかりやすい手作りの書架表示など、あちこちに心のこもった工夫が見られました。壁が出現して完璧なおはなしの部屋になるというスペースは今は解放されていて、ゆったり絵本を楽しんでいる親子がいました。また、夏休みということもあり、多くの小学生が思い思いに本を選んでいました。

入口のすぐ横では、人権推進室と連携して戦争体験記のポスターと関連図書を紹介していました。このような連携事業としては、保健センターとの共催による「赤ちゃんをむかえるための絵本選びと保健師さんのおはなし」、国崎クリーンセンターとの共催による食品ロスに関する上映会と古新聞を使ったドレス作りなどがあるそうです。その他にも「学校図書館応援プロジェクト」でのブックコマース講座、音訳ボランティアの育成とデジ資料の作成など様々な事業について説明を受け、とても参考になりました。中でも「夏休み子ども科学教室」の二酸化炭素実験は楽しそうで、私も参加してみたくなりました。また、手話通訳つきの紙芝居イベントの開催など、思いもよらない発想が新鮮でした。

一方、一般書の本棚が溢れそうになっているのは、宝塚でも見なれた光景でした。スペースの限界という悩みは同じですね。場所的にも近く、宝塚と似ているところは他にもいろいろありそうです。

夏休みでお忙しい中、「歩く丁寧さん」と親しみを込めて呼ばせていただいている藤本館長補佐にお話を伺いました。本当にありがとうございました。

(宝塚市立中央図書館 永尾理恵子)



# 協会からのお知らせ

## 表彰者の紹介（敬称略）

永年 萩庭恵美（神戸）  
棟安陽子（神戸）  
谷岡史絵（神戸）  
山本信子（三田）  
小田ゆたか（三田）  
柏木珠代（加古川ウェルネス）  
三葉展子（たつの龍野）  
梅村かほり（たつの新宮）  
武田成美（上郡）  
馬場 歩（佐用）  
松本和美（丹波山南）  
足立容子（丹波青垣）

## 平成28年度役員紹介（敬称略）

会 長 善部 修（県立）  
副会長 田中豊久（県立） 笹井 徹（神戸）  
磯邊 宏（猪名川） 益田喜進（姫路）  
理 事 丸尾恵子（芦屋） 竹内久義（加古川）  
伊藤真紀（三木） 片木美智（太子）  
赤井毅彦（篠山） 足立知幸（朝来）  
居内秀樹（洲本） 中村雅彦（議会）  
監 事 北 裕幸（西宮） 西角隆行（相生）

## 平成28年度全国図書館大会助成事業

- 伊丹市立図書館  
ことば文化都市伊丹10周年記念事業／講演「本でまちと人を輝かすコミュニティづくり」、  
「ことば文化サミット」／講師：蟻井純充氏  
（まちライブラリー）、真鍋正宏氏（追手門学  
院大学教授）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学  
教授）／5月3日（火）、6月26日（日）
- 小野市立図書館  
職員研修「図書館員のためのアサーショントレ  
ーニング」／講師：高野一枝氏／6月28日（火）
- 宍粟市立図書館  
図書館職員研修講演会『石井桃子と図書館「人生の  
幸福は重大な事件ではなく、日常の些事によっ  
て決まる」』／講師：小寺啓章氏／11月30日  
（水）
- 西宮市立中央図書館  
職員向け研修会「市民に使われる図書館とは」  
／講師：常世田良氏（立命館大学文学部教授）  
／実施日時未定
- 神戸市立中央図書館  
職員研修「『地域の情報拠点』としての図書館  
～ヨコハマライブラリーカフェの取組～」／講師：鈴木裕美子  
氏（横浜市中央図書館職員）／10月20日（木）

- 豊岡市立図書館  
平成28年度図書館まつり／平成28年10月30日（日）
- 丹波市立中央図書館  
丹波市子ども読書推進講座「絵本の読み聞かせ入  
門講座」（2回講座）／講師：諸岡 弘氏（JRAC関  
西支部代表）／11月12日（土）、12月10日（土）
- 西宮市立鳴尾図書館  
連続読書会「西宮ゆかりの小説を読もう 司馬遼  
太郎から涼宮ハルヒまで」（全5回講座）／講師：  
土居 豊氏（作家・文芸ソムリエ）／11月5日  
（土）、12月11日（日）、平成29年1月14日（土）、  
2月12日（日）、3月11日（土）
- 福崎町立図書館  
絵本読み聞かせ講座（全3回連続講座）／講師：小  
栗栖真弓氏（姫路おはなしの会）／平成29年1月  
25日（水）、2月22日（水）、3月22日（水）
- 西宮市立北口図書館  
講演会「図書館と震災」／講師：公益財団法人シ  
ヤンティ国際ボランティア会職員／平成29年3月
- 兵庫県立図書館  
子ども読書活動推進モデル事業「えほんdeピクニ  
ック」他の開催／10月16日（日）、11月19日（土）

## 平成28年度の大会・研究集会（今後の予定）

- ひょうご子ども読書活動推進フォーラム  
「地域をつなぐコーディネーターによる読書コミ  
ュニティ拠点の形成」  
・地区フォーラム／講演・トークセッション・実  
践発表等、ビブリオバトル甲子園（「中高生の部」  
地区予選）  
阪神・丹波地区／10月2日（日）、神戸・淡路地区  
／10月23日（日）、播磨東地区／10月30日（日）、  
播磨西地区／11月6日（日）、但馬地区／11月12日  
（土）  
・全県フォーラム／講演：村上信夫氏（元NHKエ  
グゼクティブアナウンサー）、実践発表、ビブリ  
オバトル甲子園（「中高生の部」「社会人の部」  
準決勝・決勝）／神戸市勤労会館／12月18日（日）
- 文科省・図書館地区別研修（近畿地区）  
和歌山県立図書館／平成29年1月31日（火）～2月  
3日（金）

兵庫県図書館協会会報 No.109  
平成28(2016)年10月1日 発行  
編集・発行：兵庫県図書館協会  
〒673-0891 明石市大明石町2-1-29  
兵庫県立図書館内  
Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500  
E-mail:hyoto\_hyotokyo@library.pref.hyogo.lg.jp